

准教授

通山 久仁子

■ 学歴

1. 2018年 立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科コミュニティ福祉学専攻（博士課程）単位取得満期退学

■ 学位

1. 2019年 博士（コミュニティ福祉学）

■ 研究分野

1. 障害者福祉
2. 地域福祉

■ 研究キーワード

1. 障害者家族
2. 「親亡き後」
3. 当事者組織

■ 研究課題

1. 発達障害者家族を対象として、「親亡き後」の生活課題・生活支援ニーズを明らかにし、そのニーズに応じた支援体制を「障害当事者」および「親当事者」の「当事者」組織を主体として構築していくための具体的な方策について検討する。

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワーク演習（後期）
2. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（前期）
3. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（後期）
4. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（前期）
5. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（後期）
6. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（後期）
7. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）
8. 保健福祉学入門（前期）
9. 福祉入門（前期）
10. 福祉経営論（前期）
11. 就労支援サービス論（前期）
12. 障害者福祉（後期）
13. 専門研究Ⅰ（通年）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習】</p> <p>本演習は初年次の学生を対象とした演習科目であるが、面接技法やソーシャルワーク・グループワークの展開過程などのソーシャルワークの実践技術が多く含まれた科目である。グループワークに慣れていない初年次生を対象としているため、楽しみながらグループづくりをできるようなプログラムを取り入れた。また、わかりやすい事例を選定したうえで、基礎的な知識の確認を丁寧に行いながら演習を展開した。できる限り多くのグループワークやロールプレイを取り入れ、他者と意見を共有しながら、実践的にソーシャルワークのスキルを学べる機会を設けるようにした。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
2.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ】</p> <p>本演習はソーシャルワークに関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、「人権」などの福祉的価値・倫理を基盤に知識・技術を用いることができるようにプログラムを展開した。そして学生がソーシャルワークのスキルを体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイを取り入れ、面接場面などをクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるような機会を設けた。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
3.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ】</p> <p>本演習はソーシャルワークに関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、「人権」などの福祉的価値・倫理を基盤に知識・技術を用いることができるようにプログラムを展開した。そして学生がソーシャルワークのスキルを体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイを取り入れ、面接場面などをクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるような機会を設けた。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
4.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ】</p> <p>本演習はソーシャルワーク実習と連動して開講される演習科目である。そのため、臨床現場で用いられる技術・技法に焦点化し、演習を展開した。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないよう、その基盤にある福祉的価値・倫理を十分に説明する機会を設けるようにした。また、できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
5.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ】</p> <p>本演習はソーシャルワークの技術を学ぶ最後の演習であり、学生には馴染みの薄い、地域の組織化や福祉のまちづくりの視点を習得する演習科目である。まず学生が地域とは何かを理解できるよう、「まち歩き」などのプログラムを取り入れ、実践的に地域福祉の視点を学べるような機会を設けた。そして個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。今年度は「ごみ屋敷」の住民への訪問場面や「地域ケア会議」の場面などのロールプレイを多く取り入れ、また「障</p>

	<p>害児の親のサポートグループ」の運営、イベントの企画・運営、評価など、当事者へのアプローチや多職種との調整、地域向けの活動・事業の企画・運営を実践的に学べるプログラムを取り入れた。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
6.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】</p> <p>本科目は2年次の実習科目である。「障害者福祉」を履修中の学生を対象としているため、「障害者福祉」に関する基礎的な知識を学習できる機会を多く設けた。また車いすの使用法や、障害者施設で用いられている療法や支援方法を実践する機会を講義内で設けるとともに、実習の目的や実習に臨む姿勢について考える機会を設けるようにした。</p>
7.	<p>授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】</p> <p>実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、自ら考察を深めることができるための基礎力を養うことに焦点化した。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について指導時間を設けた。事後学習では、各実習生が担当した事例の検討会を行い、プレゼンテーションや会議の運営方法について学ぶ機会を設けるとともに、グループスーパービジョンなど、グループでの実習体験の共有を通して、体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けるようにした。</p>
8.	<p>授業科目名【保健福祉学入門】</p> <p>本科目は保健福祉学部の7人の教員によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉学の研究」について1コマを担当した。対象が初年次生であり、他学科の学生も対象としているため、社会福祉とは何かという基本的な説明を行い、社会福祉分野での研究について、自身の大学・大学院での学びを実例としてあげ、大学で研究を行うことの意義をわかりやすく伝えられるように努めた。</p>
9.	<p>授業科目名【福祉入門】</p> <p>本科目は4人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の2コマを担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。</p>
10.	<p>授業科目名【福祉経営論】</p> <p>本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。</p> <p>本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、実習での体験と関連づけて理解できるようなアクティブラーニングのワークを取り入れるなどして、学生が身近にとらえて理解できるよう努めた。</p>
11.	<p>授業科目名【就労支援サービス論】</p> <p>本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また視覚教材を用いたり、事例演習を取り入れたりしながら、就労支援のサービス内容を具体的に理解できる機会や、就労支援の展開過程を実践的に学べるような、アクティブラーニングの機会を設けた。</p>

12.	<p>授業科目名【障害者福祉】</p> <p>本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。</p> <p>本科目は、2年生を対象としており、社会福祉の基礎となる科目のひとつでもあるため、出生前診断に象徴される優生思想や、「親亡き後」問題に象徴される社会的排除や孤立の問題といった具体的な事象を取り上げながら、障害者福祉の理念や基本的な視点を伝えられるよう努めた。また障害者の実像についてできるだけ具体的にイメージできるよう、視覚教材を用いるようにした。そしてできるだけアクティブラーニングを取り入れ、学生が他の学生と意見を共有しながら学べる機会を設けるようにした。</p>
13.	<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>前期は学生の関心のある文献を取り上げ、文献の読み方を中心に、論文作成の方法についての学習を進めた。後期は学生の関心のあるテーマにしたがって、論文作成に向けた指導を行った。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2004年～現在に至る	日本社会福祉学会	
2.	2005年～現在に至る	日本発達障害学会	
3.	2009年～現在に至る	障害学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
	(著書)				
	(学術論文)				
	(翻訳)				
	(学会発表)				

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	発達障害者家族の「親亡き	日本学術振興会	1,820,000	

後」の支援体制の構築に関する研究			
------------------	--	--	--

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008年6月～現在に至る	特定非営利活動法人 nest	理事
2.	2013年4月～現在に至る	北九州市障害支援区分認定審査会	委員
3.	2020年4月～現在に至る	北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会	専門委員
4.	2021年6月～現在に至る	社会福祉法人喜久茂会評議員選任・解任委員	委員
5.	2023年6月～現在に至る	社会福祉法人薫会	理事
6.	2023年9月～2024年3月	北九州市障害者自立支援協議会障害者地域生活支援研究会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017年4月～現在に至る	保健福祉学研究所運営委員	運営委員
2.	2021年4月～現在に至る	倫理審査委員	委員
3.	2022年7月～現在に至る	外部資金導入促進プロジェクトチーム	委員